

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	18			指導訓練に必要な児童一人当たりの面積が県の基準を上回っているため適切である
	2	職員の配置数は適切であるか	18			法令を遵守している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	17	1		2Fへは階段のみ、構造上EVやスロープの設置ができない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	18			午前中の会議においてPDCAやOODAを取り入れ情報共有を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	18			外部評価やアンケートを用いて、保護者様のニーズに合わせた改善を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	18			公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	18			外部評価を行い、業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	18			事業所内で研修を実施している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	18			直接または電話に加えてLINE@でも気軽に相談や情報交換ができるようにしている。概ね6ヶ月ごとに支援計画書を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	18			公認心理士による発達検査を実施している。また、医療機関での発達検査の結果をご提出いただいている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	18			常勤職員が中心となって、プログラムを立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	18			製作、調理、音楽、各種セラピーやSSTなど様々な活動やプログラムを実施している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	18			平日は字音と他児とのコミュニケーションを中心にやっている。学校休業日は各種セラピーや様々なイベントを実施している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	18			個々の苦手に寄り添った支援を目標を定めて実施している。またイベントを通して集団活動へ
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	18			担当制を導入しており、職員は始業前に必ず担当児の確認と役割の確認を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	18			送迎時の家庭からの申し送り事項の確認や振り返りを行い、連絡帳の複写を取っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	18			連絡帳の複写を取っている。記録は支援計画や方法の検討、支援の改善に利用している。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	18			保護者面談を実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	18			ガイドラインに沿いつつ、個々の特性に配慮した支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	18			全ての子どもに責任者が精通しており参画している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	18			情報共有に積極的でない学校もあり、保護者を通じて行う場合がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		18		現状、看護師の配置をしておらず、受け入れは難しい。必要に応じて連携を図る。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	18			保護者や相談支援員を通じて行っている。同グループ内の児童発達支援事業所とは連携を密にしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		18		学校卒業者はいないが、グループ内の福祉サービス事業所と密に連携を図ることが可能である。また、その他事業所には相談支援事業所を通じて連携を図る。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	12			研修は、事業所内にとどめている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	8	10		児童クラブ等との交流に一部の保護者が難色を示しており実施が難しい。職員の子供たちと交流している。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか			18	積極的に参加はしていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	18			送迎時や連絡帳の記載により行っている LINE@でも気軽に行えるようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	18			希望者に対して実施ができるが、今のと
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	18			重要事項説明書に明記している。契約時に口頭での説明をしている。利用開始後も必要に応じて行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	18			保護者からの相談は、責任者が窓口となり職員間で共有している。緊急性を疑う場合は、即時訪問している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		18		ほとんどの保護者が有職であるため、負担を考慮し、保護者会などの活動は行っていない。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	18			責任者が訪問して、対応にあたるようにしているが、苦情が寄せられたことがない。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	18			SNSやホームページにて発信している。月刊で教室だより「ステップアップ」「グロウアップ」を配布している。
	35	個人情報に十分注意しているか	18			個人情報情報保護に関する、様々なセキュリティを導入している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	18			連絡帳や電話、必要に応じて直接口頭で伝えてい。LINE@も活用している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		18		インフルエンザ等の流行によりに、実施していない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	18			マニュアルを作成して職員に周知徹底している。感染症に対応したマニュアルを作成し、周知徹底に努めた
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	18			1月地震 5月不審者侵入 9～11月火災の訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	18			虐待防止法ガイドラインに沿い運営している。研修を実施し、周知に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	18			契約時に生命身体に危害が及ぶと予測される場合に一時的身体拘束を実行する説明をして承諾を得ている。計画書にも明記している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	18			保護者に対し事前確認を書面にて行っている。原状、重篤なアレルギーの子供は在籍
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	18			ヒヤリハット報告書に記録し、事業所内で回覧している。再発防止会議を実施している。